

## サイレーシ用トウモロコシの採種栽培試験

広瀬 謙次・井上 尚武  
(大分県農業技術センター)

HIROSE, K. and INOUE, N.  
Seed production Trial of Ko-No. 10 corn.

F<sub>1</sub>品種交10号を本県の奨励品種として採用する場合、その種子生産農家における種子生産量、労働時間、経営費等を調査し、普及するうえでの問題点を検討したので、その概要を報告する。

## 試験方法

年次	播種様式	播種月日 (月日)	収穫期 (月日)	試験規模 (a)
47	90cm 条播	4. 3	9. 13	10
48	90cm 条播	4. 3	9. 12	2
	110cm 並木植	4. 3		10
	110cm 並木植	6. 13	4	
49	110cm 並木植	4. 5	9. 4	20

母品種千葉八街在来を0.3kg, 父品種白石1号を0.1kg, 株間30cm 2～3粒点播し, 90cm条播は母品種3畦ごとに, 110cm 並木植は4畦ごとに父品種を1畦とし, 栽植本数を条播370本, 並木植440本とした。施肥は基肥として窒素1.0, 燐酸2.5, 加里1.5kgを施し, 10葉期の頃, 窒素0.5, 加里0.5kgを追肥した。母品種の除雄は, 約20日にわたり早朝開花前に行った。

## 結果および考察

2年次以後は, 増収と耕耘機による省力的中耕除草を目的として110cm 並木植とした。また2年次, 麦作跡地利用を想定して6月播種区を加えた。子実収量は図1のとおりである。台風の影響が皆無であった2年次の, 栽植本数の多い4月並木植が, 500kgの目標収量に達したが, 初年度および3年次は台風による倒伏で低収となり, また6月播種区の収量も最低となった。

収益性は表1のとおりで, 2年次4月並木植が粗収益, 所得, 所得率とも最高を示したが, 作業時間は子実の増

収分だけ長くなり, このため経営費も増加した。作業時間を露地野菜栽培に比較すると2倍以上を要しており, 除雄, 乾燥, 脱粒作業の省力化を検討する必要がある。

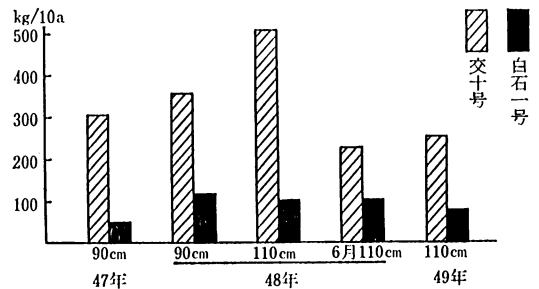


図1 子実収量

表1 収益性 (10a当り)

区	項 目	項				作業 時間
		粗収益	経営費	所得	所得率	
47年	90cm 条播	51,100	39,803	11,297	22%	160
48年	90cm 条播	64,650	40,403	24,247	38	164
	110cm 並木	85,500	47,153	38,347	45	209
	6月 110cm 並木	44,100	40,375	3,725	8	160
49年	110cm 並木	44,650	41,825	2,825	6	159

(交10号種子150円/kg, 白石1号100円/kg, 経営費は47年物価水準による)

## 要約

以上のことから, トウモロコシ交10号の採種栽培は, 農業経営となり得る部門であることが明らかであるが, 種子生産量は台風による年次変動が大きいので, 採種栽培を普及するためには, 何らかの助成措置が必要であると考えられる。